

き ぼ う

青少年育成広報

第 38 号

発行人

青少年育成那珂市市民会議

会長 関 守



奥久慈憩いの森 (R5.9.16)

ふるさと教室「自然探検ツアー」

続けたいこと

わかしぎ学園 那珂市立善谷東小学校 六年 飛田 和葉
放課後、四年生から続けてきた金管バンド部が今年でなくなりました。私は最後の部長という事になりました。

全体合奏で、一曲が仕上がると達成感があり、メリハリのある練習のおかげで本番を迎える事ができると、とても嬉しいのです。

そのためには、先生方や部員と相談してやる事や、助けてもらう事を学び、改めて協力し合う事が大切だと思いました。ずっと続けてきた金管バンド部が閉じてしまうのは悲しいですが、中学校生活でも活かしていきたいです。

誓い

ばら野学園 那珂市立第一中学校 七年 成松 龍佑
一月一日、緊急地震速報のけたたましい音で、静かな正月の空気は一変しました。テレビに映しだされた能登半島の映像に言葉を失いました。震度7の巨大地震。つぶれた家屋や避難所で毛布にくるまり寒さをしのぐ人達の姿に心が痛みました。当たり前だと思っていた日常は一瞬で変わってしまうことを知りました。

僕は今、家族に囲まれ、友達と笑い、大好きなテニスができます。その日常がどれほどかけがえのないものかをかみしめ、何事にも全力で精一杯取り組みようと心に誓いました。

青少年健全育成
の ま ち 宣 言

- 1 市民の英知を結集し、みんなで積極的に青少年を育成しよう。
- 2 よい環境をつくり、心豊かでたくましい青少年を育成しよう。
- 3 自立の心を養い、連帯性や社会性に富む青少年を育成しよう。

「家庭の日」図画・作文発表会 並びに表彰式典

令和5年12月9日(土)
市総合センター6号館

茨城県青少年育成協会では、明るく楽しい家庭づくり県民運動の一環として「家庭の日」を普及させるため、絵画・ポスターコンクールを実施しています。

青少年育成那珂市民会議では、この趣旨をさらに浸透させるため、コンクールに作文の部を加えると共に、毎年、作品展示・作文発表会・表彰式典を実施しています。今年度は、市内の小中学校から図画606点、作文871点の応募がありました。紙面では、図画・作文とも金賞を受賞した作品のみ紹介させていただきます。

「家庭の日」図画・作文発表会並びに表彰式典

主催 / 青少年育成那珂市民会議 共催 / 那珂市教育委員会



ぼくのとくいなおてつだい

わかすき学園 那珂市立菅谷東小学校

一年 清水 琉生

ぼくのかぞくは、四人かぞくです。おとうさん、おかあさん、ぼく、いもうとでくらしています。

ぼくはおかあさんにおてつだいをたのまれると、とってもうれしいです。いつもおやすみのひには、あさおきるとおふとんをほしたり、たたんだりすることからはじまります。

ごはんのじゅんぴのおてつだいをすることもだいすきです。たまごをわって、たまごやきをつくることもおかあさんにみてもらえば、ひとりでするようになります。ごはんを四人ぶんおちやわんにわけた

り、おはしをテーブルにならべたりすることもぼくのやくわりです。おかあさんといっしょにごはんのじゅんぴをしていると、おとうさんはた

くさんほめてくれます。ぼくのつくったたまごやきは、かぞくにだいにんきです。かぞくのみんながおいしいといってたべてくれるとうれしいです。とくにいもうとがもったいたい、おかわりしたいといってくれるのがすごくうれしいです。

ほかにもかぞくといっしょにぎょうぎをつくるときも、ぼくはとってもはりきってがんばります。おりょうりのおてつだいをすると、おかあさんは「ありがとう。」といってくれて、おとうさんは「えらい、すごい。」とほめて、いもうとは「おいしい。」とたくさんたべてくれるのでぼくもうれしいきもちになります。

ぼくは、いもうとがだいすきでいっしょにあそびます。おきがえをしたり、ドライヤーでかみをかわかしたり、ないているときにおもしろいことをやってあげたりします。ぼくがかわらせると、いもうとはた

「がんばれ。」

「小やは、もうちよつとだよ。」

といって、はげましてくれましたので、がんばって登れました。小やに着くと、休けいを取りました。小やまでくると、山ちようまではあと半分です。けれど、後半の方を見ると、さらに大きな岩がいっぱいありました。岩がぐらぐらしてこわいところもあったけれど、そのたびに父が手をかしてくれたり、母が声をかけたりしてくれました。妹も何とも立ち止まりながら、一生けんめい登っていました。

山ちように着くと、けしきがとてもきれいで、山と雲がいつしよになって、真つ青な空が広がっていました。山ちようで食べたおにぎりは、いつもよりおいしく感じました。

少し休けいした後、下りはころばないようにゆっくり歩きました。だんさがあるところは、しん重に岩をつかんで下りました。と中なんども

立ち止まったけれど、家族ではげまし合いながら下りました。

やっとのことでちゅう車場に着いた時は、すごくほっとしました。足の感かくがないくらいつかれてはいたけれど、みんなぶじに帰ってこれてよかったです。山登りは大へんだけれど、家族みんなでちようせんできてうれしかったです。今年の夏の思い出になりました。

宮田家せん用仮想通貨

わかずき学園 那珂市立菅谷小学校

四年 宮田 かさね

わがやには、家庭内仮想通貨「ペイ」という物があります。

使い始めたのは、わたしが小学一年生のころ、新型コロナウイルスが流行して、買い物に自由に出かけることができなかった時でした。母がSNSで読んだ記事に、「コロナか

で子供たちにストレスがたまらないように、紙でお金を作り、お手伝いをしたらそれをあげて、だがしなどを買って面白い物ごっこをして気分転換かんをする」という事が書いてあるのを見て、まねしたことから始めました。新聞を取りに行ったら十ペイ。そうじ機をかけると二十ペイなど、仕事の内ようで金かくが変わってきて、チョコやクッキーなどのおかしと交かんできます。

その後、兄は五年生になり、毎月決まったがくのおこづかいをもらえるようになりましたが、四年生のわたしは、まだお手伝いをしてペイをもらう生活をしています。

低学年のころは、おかしと交かんでできるだけだったペイも、今は五百ペイたまったら現金五百円と交かんできて、ほしい本やガチャガチャにも使えるようになりました。ペイをためていると、以前よりもお手伝い

をする回数が増えたように感じます。それに、ほしい物のためにするお手伝いは楽しくがんばれるし、家族はお手伝いをしてもらって助かるので、みんな気持ちよくできると思っています。

わたしはよく、目標がくまであと少しの時に、家族に「何かお手伝いある?」と聞きます。父や母も少し手伝ってほしい時に、「十ペイあげるから」と声をかけてくれます。ペイがあることで、家族みんな気軽に「手伝って」「いいよ」の声かけができるようになりました。

来年には、わがやのペイがなくなってしまうかもしれません。けれど、楽しくお手伝いしようというころざしは残しておきたいです。



わが家の水曜日

わかすき学園 那珂市立萱谷小学校

五年 松本 理奈

私の家族は、七人です。私が二才の時に家を建てて、一階に祖父と祖母、二階に私たち家族で住むようになりました。

私の家では、毎週水曜日に一階で祖母の作った夕食をみんなでいっしょに食べる習かんがあります。これは、姉と兄の習い事の送りむかえや、小さい私をみながら母が夕飯のしたくをするのが大変だろうという理由で始まりました。小さいころの私は、それが楽しみで、夕方から一階におりて絵をかいいたり、祖父と工作やおしゃべりをしていました。

祖母が作ってくれるメニューの中で一番好きなのは、ポテトサラダです。マヨネーズが多めで味がしっか

りしている所が良いです。

私が小学生になったころには、夕方にはげん関を開けた時にするにおいて何となく今夜のメニューが当てられるようになりました。母とメニュー当てっこゲームをして、予想が当たった時は、「やった!」と少しうれしくなります。

でも、去年から祖父母と話す事や一階におりる事が面どうくさいと感じるようになりました。その事を母に話したら、
「それは理奈が成長してるあかしだよ。小さい時とちがつて、自分でやる事ややりたい事がふえたからそう感じるのかもね。そう思うのは悪い事じゃないけど、孫たちと食事するのを楽しみにしてるじい、ばあの気持ちにはわかってね。」
と、言われました。

たしかによく考えれば、姉も兄もご飯が終わるとすぐに二階へ行って

しまいます。だから私の時間がある

時は、祖父母の所へ会いにおりるようになっていきます。ふつうの日はむずかしいけど、夏休みのように長い休みの時は祖父母との時間をこれから大切にしたいと思います。

大切な時間

わかすき学園 那珂市立萱谷東小学校

六年 高嶋 瑞歩

去年、私の家には新しい時間が増えた。五年生の家庭科の授業で、お茶の入れ方を習ったからだ。それまで私は、お茶は苦いのであまり飲んだことがなかった。学校で入れたときも苦くなってしまったが、家で父と母が飲んでいたので私も飲んでみようと思った。そして、授業で習ったことを父に話すと、

「じゃあ、お茶入れてくれるかな。」
と言った。

その日から、夕食後にお茶を入れ

ることが私の日課になった。食事が終わると、母が食器を洗っている間に弟がお風呂を洗い、私がお湯をはる。お風呂がわくまでの間が「お茶の時間」だ。しかし、毎日となるとめんどろうだと思うこともあった。でも、お茶の時間ができたことで家族とゆっくりする時間が増えた。お茶の時間がなかったときは、夕食が終わると宿題の続きをやったり、テレビやスマホを見たり、各自ですごしていた。でも今は、たまにデザートを食べたり、学校のことや仕事のことで、おもしろかったことなどを話したりする。夕食のときよりいろいろな話ができる。お茶を飲むと心も体も温かくなる気がした。母が中学生や高校生のときにも、夜勉強していると、祖母が

「お茶入ったよ。」
と呼びに来て、家族との団らんの時

間があったそうだ。このことを母と話していたら、父が

「うちも同じことをしていたよ。」

と言った。私が大人になっても、同じことをするのかと思った。

私にとって家族とお茶の時間は、特別楽しいわけではないけれど、リラックスできる時間だ。これからも、この時間を大切にしていきたい。

祖父の肩

緑桜学園 那珂市立第三中学校

九年 楠見 友菜

私が好きな時間は、母の実家に親戚みんなで集まった時だ。特に、集まった日の夕食後、みんなでダラッとする時間だ。

私が幼いときの夕食後、伯父に突然、「俺の肩揉んでよ」と言われた。私は言われた通り伯父の疲れた肩を揉んでいたら、「友菜、凄くいいね！

ありがとう。」と伯父が寝そうになりながら言った。その後、伯父の肩だけではなく、集まっている親戚全員

の肩を揉んだ。しかし、祖父の肩は揉まなかった。私は祖父のことがあまり好きではなかったから。

祖父はいつも怖い顔をしていたから、近付きにくかった。

私が小学校高学年になったとき、祖父母の田んぼの稲刈りを手伝った。祖父のお姉さんが、「じいちゃん

のこと、ちゃんと大切にしていっつか？」と鎌を動かしながら聞いてきた。私

はしっかりと答えられなかった。稲刈りを終えた夜、親戚が祖父母

の家に集まった。祖父が私と私の姉に旅行のお土産をくれた。姉には姉

に合ったもの、私には私に合ったもの。私はそのお土産を手にとったと

き、祖父は私のこともしっかき思ってくれていたのだと分かった。とて

もうれしかった。

夕食の後、初めて祖父の肩を揉んでみた。祖父の肩には筋肉がたくさん付いて、そして少し凝っていた。「いいな、気持ちいいな。」と言って

くれた。この日を境に、祖父に会った時には毎回肩揉みをした。

一年前、私が中学一年生のとき、祖父にガンができた。今年、私の最後の部活の大会の前日に祖父は亡くなった。

祖父は亡くなる一ヶ月前から、私のことを気にかけていたらしい。「友菜はどうだ？元気にしていっつか？」

祖父がお見舞いに来る母に何度もきいていたそうだ。

祖父が亡くなる三日前にお見舞いに行くことができた。祖父はもう話すことができなかったけれど、祖父

が私に笑顔を見せてくれた。祖父の思いがその笑顔で伝わった気がする。

祖父が亡くなった後、納棺する前

に、最後の肩を揉んでみた。いつもより、硬くて冷めたかった。今でも起きそうなのに…。

私は後悔した。もっと祖父との思い出を作って、もっと祖父と話せば良かった。じいちゃんのこと、ちゃんと大切にすれば良かった。

一ヶ月が経って、祖父の月命日に祖父母の家に親戚が集まった。やはり、祖父の姿はどこにもない。でも、

どこかで見ている気がする。夕食後みんなでダラッとする。祖父の思

い出話をきいた。みんなの肩を揉んだ。話をきいていると、祖父は愛情

表現が苦手な人だったそうだ。

もう一度、祖父と親戚のみんなで夕食を食べ

て、ダラッとして、祖父の肩を揉んでみ

たい。



「親が変われば、子どもも変わる」運動 那珂市推進大会

令和5年10月29日(日)
市総合センターらぼーる



思い通りにいかない子育て

白鳥学園 那珂市立瓜連小学校

保護者 大橋 沙耶香

私の家族は小学六年生になる息子、小学五年生になる娘、主人と4人家族です。

我が家は年子なので、とにかく赤ちゃんの頃の記憶がないほど必死に

青少年育成那珂市民会議では、時代を担う青少年が、心身共に健康で人間性豊かに成長することを願い、子育てに関する講演会を実施しています。また、保・幼・小・中・高、各世代の子をもつ保護者による子育て体験を文集にまとめて配付しています。今年度は、青少年心理アドバイザー

ザー浅井和幸先生の講演を行いました。子育て体験文は白鳥学園の小学校・那珂高校の保護者代表に執筆していただきました。ここに「子育て体験文」を掲載します。皆様の子育てや、より明るい家庭づくりのための参考にしていただければ幸いです。



育児をしていたものです。その頃は無我夢中で母親に助けを求めて常に実家通いでした。今思うと、よくあんなにも通っていたなと思います。きっと子どもたちが大きくなっているから、今は冷静に周りが見られているのかもしれない。友人からは、育児の先輩とは言われるものの、あたふたしているうちに幼稚園、小学校となつて今に至っています。ですからアドバイザーと言っても適当さが勝ってしまい、きちんと言えないものです。

さて我が息子、怪我が付きもので幼稚園では頭を切って救急車で運ばれたり、小学校ではブライベートで遊んでいて腕を骨折したり、活発かと思うのですが、お家ではゲーム三昧の毎日を送っています。

運動を兼ねてと思い、小学四年生の時に母の願いで野球のスポーツ少年団に入団しました。しかし、本人は野球をするより観る方がいいと言いつつ一年足らずで退団してしまいました。退団する際、実際お風呂の中で父親と息子で話をしたようで、私の「やるからには最後までやり通す！」の言葉がけが、息子にとってはかなりのプレッシャーであり負担だったようです。「お母さんがやるからには最後までやる！」って言うから言え

なかった。」と泣きながら話をしていました。この時、無理矢理やらせてしまったことは、母親のエゴであったと後悔しています。

周りからは「体が大きいからもつたいない、せつかくこまでやってきて！」と言われますが、「ここは息子の意見を尊重しよう。」と、何と言われようが気にしないことにしました。

今でも一緒にやってきた息子の友人の活躍や高校野球やプロ野球を観たりすると、やっていたらどのくらい活躍していたのだろうと思う時があります。体を動かすことは嫌いではないので、今でもキャッチボールを忘れたころにやったり、自分がやりたい時にやったりしているようです。

高学年に上がり、自分の意見をはっきり言えるようになると、毎日のように言葉のぶつかり合いです。それまではモジモジしていることが多かったのですが、だいぶ成長している証なんだろうと思います。

4年ぶりに交通安全子供自転車大会という大会が開催され、学校から帰ると、私に「この大会出てもいいかな？」といつもは言わない息子が積極的に話をしてくれました。「できるのであればやってみたら？」と詳細

も確認することなく返事を簡単にしてしまったら、2日間で交通安全の冊子を覚えて、実技の自転車にも乗り、試験に合格した者だけが大会に出場できるということでした。このことに驚き「絶対に合格する！」と誓い、有言実行で頑張りました。その結果、出場権を手にした時は家族で喜びあいました。

大会までに自転車の乗り方、標識などの筆記試験対策と実際に自転車に乗って横断歩道の渡り方、8の字走行、障害物を避けての走行などの実技試験の練習を友人と必死に集中して体に覚えさせました。「やるからにはやってやるぞ！」という意思がふつふつと湧き出るのを感じました。

大会当日は、代表で選ばれた友人と筆記試験、実技試験と大勢の中で披露し、緊張の中たくさん難題をこなしました。順位は関係なく最後まで諦めずにやりきった息子、友人を見て感動しました。

このような姿を見たことがなかったの、改めてここぞという時に最後まで諦めずに取り組むことができ、自分で決めたことに対して意思を持って行動していることに、親以上にしっかりしているなど感じました。親が〇〇しように始めさせたこ

とよりも「自分でこれをやってみていい！」と自分の意志で決めて取り組むことが、どれだけ本人のためになることを子どもから教わりました。よかれと思って子ども意見もあまり聞かずに母親の独断で決めていたの、言いたい事はぐっところえ、子ども意見尊重してあげられるように見守ってあげるこの大切さを改めて学びました。

まだまだ子育ては続きますが、これから少しずつ自分で考えて取り組むことが増えてくるかと思うので、一緒に考え、悩み、時にはアドバイスをしてあげながら成長する姿を見守っていきたいです。

そして、最近また自転車がスリッブして骨折しました。やっぱり懲りないですね。あれだけ自転車の勉強をしていたのにも関わらず「腕をまたやってしまった。」と、自転車を思い通りに動かせず後悔をしているようです。

もう少し手がかかりそうですね。母親としては、これからも面倒が見られることを歓迎したいです。



愛を言葉で伝える

白鳥学園 那珂市立瓜連中学校

保護者 萩野谷 友紀

私には、高校一年の長男、中学2年の次男、小学五年の長女がいます。

長男が産まれた15年前、私にとって初めての育児が始まりました。初めての育児は可愛いだけで済む訳もなく、なぜ泣いているのか、なぜ寝ないのか、どうしていいかわからず苛々が募りました。当時は専業主婦だったこともあり、家事も完璧にこなさなくては、と勝手に思い込んでいました。自分にはそこまでの能力はないのに目指すところは高く、結果キャパオーバーした私はヒステリックになっていました。

長男が10か月の頃、私が着替えさせるのに手こずり、長男を怒った記憶があります。当時の私は全く余裕がなく「10か月の子どもの出来なくて当たり前」と、気付けないこともありました。

長男が3、4歳の頃、おもちゃの片付けをしないことに苛立ち、おもちゃを全てごみ袋に入れ、アパートの玄関先に出したこともあり。その上「片付けられないならママは出て

いく！」と、言い放ち、大泣きする長男を置いて玄関の外に一瞬出たこともあり。言う事を聞かないと母親がいなくなると思わせ、半ば脅しです。

今思い返すと、なぜそんなことをしたのかと後悔しています。長男がどれほど怖かったか、悲しかったかを思うと、この作文を書きながら胸がとても苦しくなりました。

当時の私は長男の寝顔を見ては自己嫌悪になり、毎晩泣いていました。次男、長女が産まれてから気持ちに余裕が生まれ始めましたが、長男には厳しく接していたように思います。厳しくというより、私の八つ当たりが激しかったと言った方が正しいかもしれません。

長男が小学一年のとき「学校に行きたくない。」と、玄関を出るのを拒否したことがあります。理由を聞いても「分からない」の一点張りでした。私は行かせることに必死でした。大泣きする長男を、登校班の五年生4人組が手を引きながらなだめて連れて行ってくれました。長男のために、私も5歳の次男の手を繋ぎ、2歳の長女をおんぶしながら途中まで一緒に歩きました。しばらく続きましたが、当時の校長先生、担任の先生、登校班の五年生、ボランティアで

立哨してくれている地域のおじさんの協力もあり、2か月もすると泣かずに行けるようになりました。もしかしたら、内向的な長男は友達となかなか打ち解けられなかったのかもしれない。無理やり行かせて良かったんだろうかと思いつつもありませんが、結果元氣に行けるようになったから良かった、と前向きに捉える事にしました。

子育てをしていく中で、気付いたことがあります。次男、長女に対しては大らかに構えられているということです。あんなにも、ヒステリックになっていた自分が嘘のようです。自分の年齢、育児の経験値により、余裕が生まれているんだと思いました。この余裕を長男にも向けなくてはと思います。

あのときこうしておけば良かったと後悔しているだけでなく、あの頃伝えきれなかった愛を、もっと素直に伝えようと思いました。中学生の長男に対し、寝る前に「大好きだよ」「ママの大事な存在だよ」など、私から一方的に伝え続け、時には私より大きな長男にハグし、愛を伝えました。長男は思春期、反抗期の時期でしたが猛烈に拒否されることなく、照れくさそうにしながら、半ば仕方なく受け入れてくれました。

言葉で愛を伝えるようになってから、長男にも余裕を持つて接することが出来るようになりました。そして、嬉しかったことは、色々話してくれるようになりました。

子育てにおいて「ああしておけば良かった」「こうしておけば良かった」と思うとは沢山ありますが、目の前にいる我が子たちをしっかりと見つめ愛するだけでなく、これからもその愛を言葉でしっかり伝えて行きたいと思います。

子育てで親が成長

茨城県立那珂高等学校

保護者 菅谷 耕作

私は令和5年度茨城県立那珂高等学校PTA会長の菅谷耕作と申します。

生業は社会福祉法人にて指導員として務めております。

ある家庭の父親の些細な話として気軽に聞かせてください。

家庭環境としては同じ職場で知り合った妻と結婚をし、男子3人（長男高3・次男高2・三男小3）の子宝に恵まれました。

現在の住まいで生活を始めて17年

になります。我が家は核家族で、住み始めた当初は地域には知り合いがいない状態でした。

我が子がこの地で過ごし成長をして行く中で、安心安全に子どもが生活を送れるように私自身が少しでも地域の方々と知り合いになりたいと思います。自治会活動に積極的に参加をしました。理由は我が子がアクシデントに遭遇して困った際に助けて頂ける。親のいないところで悪さをしている所を地域の方々が見掛けた際は、遠慮なく叱って頂けるような関係性を持ちたいと思ったからです。

私の性格上、子どもが通う保育園や小・中・高等学校に興味関心があり自分で言うのも変ですが、持ち前の明るさとノリと勢いでPTA活動にも積極的に参加をして来ました。今年度で連続14年目となりました。妻はあきれておりますが、私は活動を通して多くの方々を知り合えた事、気の合う同士が増えた事、この2点は私の財産です。

さて、当たり前の事ですが、長男が産まれて初めて父親になりました。当時、私は男性保育士として勤務をしていました。その事もあり、父親になる事についてはある程度知識と情報があった事から、父親として子育ては出来るかと自負していました。し

かし、現実の乳児の子育ては24時間休み無し、夜間のミルク対応は妻に押し付けてしまう毎日になっていました。言い訳ですが、父親は一度寝てしまうと起きないものなのではないでしょうか？

息子が夜起きて泣いても気が付かないのです。今、冷静に振り返ると、お腹が空いて泣いたり排泄があつて泣き出したりする泣き声に妻がすぐに気が付いて即座に対応をしていたので、私の睡眠は妨げられなかったのではと推測します。妻に感謝です。

親になる前は仕事などのストレスは自分中心のプライベートタイムで、気ままにストレス発散をしていました。親となつてからは子ども中心の生活が始まり、プライベートの時間は大きく変化しました。子どもが3歳に成長をし、どうせなら子どもと楽しんで過ごす事がリフレッシュになればと考え、庭先でのプール・水遊びやバーベキューなどをして過ごしました。第3子は現在小学3年生の為、自宅の庭で過ごす遊びは現在も継続中です。

振り返ると長い年月ですが休日を家族で過ごす事の楽しさや大切さを知りました。

そんな菅谷家は休日のに庭で遊んでいる事もあり、近所の子を持つ

同世代の親御さんと話す機会が徐々に増えました。今では定期的に会って飲食を楽しむ仲間になりました。子ども同士はいわゆる「幼馴染」となり、今でも仲良くさせていただいております。我が子に幼馴染が出来た事は大きな喜びです。

子育てをする中で、様々な悩みは付きものです。その都度、家族間や地域の方々からのアドバイスで、何とかここまで過ごしてまいりました。感謝の気持ちで一杯です。

さて、ここで思い出に残った子育てエピソードを話します。長男と次男が小学生低学年だったころ、夏休みの自由研究で海の水から塩を作ってみようという事になりました。ひたちなか市の磯崎海岸から海水を汲んできて自宅に持ち帰り、なぜかバーベキューコンロの炭の熱で作ろうという事になりました。土鍋に海水を入れて炭を炊き続け、水分が無くなつては何度も海水を足していきました。炭の熱量では時間が掛かり、なんと15時間も掛かってしまったのです。その間、息子たちは粘り強く火の加減をみては炭を補充したりしながら、親子でのたわいもない会話をしたのを覚えています。そして15時間の中では天候が崩れ雷を伴う夕立に遭遇し、タープの中に逃げ

込んで火を守った事も良い思い出です。これは、子どもがいたからこそ経験出来た事だと思っています。

また、庭にテントを設営してそこへ4泊連続で寝た事がありました。子どもは夏休み期間中ですが、私は通常勤務中です。仕事を終え夕食と入浴を終えると、テントで子どもとたわいもない会話をして就寝をする毎日でした。誰かが決めた訳ではありませんでしたが、意味の無いチャレンジが始まってしまったのです。なんともバカバカしい思いながらも5日目の朝を迎え、悪天候を機にチャレンジは終了となりました。終えてみてなぜか楽しい思い出となりました。

子育てを通じて私自身が成長させていただけたと感じております。今回の『親も変われば、子どもも変わる』という活動ですが、私が考えるに、『親は子どもを通じて変わる』という事です。子どもに寄り添いながら生活を送り、出来る時に出来るだけの子育て・かわりが出来るかどうか。個人個人の余裕や力量で子どもと向き合う割合は変わるとは思いますが、子どもを蔑ろにせず同じ一人の人間である事を忘れず尊重し、接していく事が大切なのではないかと思えます。

最後に、父親としての楽しさを頂けた妻と子どもたちに感謝を述べ、文を閉じたいと思います。
ご拝読ありがとうございます。





そふと
すいかわりを
してたべた

青達学園
那珂市立
横堀小学校
1年

かわまた
川又 かなえ



楽しかった
三世代
こうりゅう祭り

緑桜学園
那珂市立
芳野小学校
2年

おさし
小澤 嵐士



ばば、
見て生きてるよ

わかすぎ学園
那珂市立
菅谷栗小学校
3年

うみやま
上山 椋太



笑顔とパンの
おすそ分け

わかすぎ学園
那珂市立
菅谷小学校
4年

みやた
宮田 かなね



2泊3日の
キャンプ

白鳥学園
那珂市立
瓜連小学校
5年

しほし
志保石 歩奈



みんなで花火
わかすぎ学園 那珂市立菅谷小学校6年
三好 希美



京都の抹茶ソフトクリーム
緑桜学園 那珂市立第三中学校8年
堀口 総大

「家庭の日」図画・作文入賞者（金賞・銀賞・銅賞）

図画の部				作文の部			
学年	金 賞	銀 賞	銅 賞	金 賞	銀 賞	銅 賞	
小1	かわまた 川又 かなえ	こいずみ 小泉 蘭汰	ぐんじ 郡司 菜愛	しみず 清水 琉生	かわがわ 鴨川 俐月	こばやし 小林 大晴	
小2	おざわ 小澤 嵐士	おおたか 大高 志乃	うちばら 宇地原 明波	うちばら 宇地原 明波	あかせ 赤瀬 功泰	まつもと 松本 空桜	
小3	うみやま 上山 椋太	やまがた 山縣 央	なかいがわ 中井川 廉	なかつ 中村 若菜	すずき 鈴木 満己	えんどう 遠藤 純	
小4	みやた 宮田 かなね	なかつ 中村 千香	たけうち 竹内 萌衣	みやた 宮田 かなね	うめざわ 梅澤 到生	きうち 木内 日々樹	
小5	しほし 志保石 歩奈	なかつ 仲田 朱莉	かんね 関根 蓮輔	まつもと 松本 理奈	すずき 鈴木 一瑳	あかせ 赤瀬 帆海	
小6	みよし 三好 希美	たかしま 高嶋 瑞歩	あかつ 坪 祐希人	たかしま 高嶋 瑞歩	きなせ 木名瀬 愛生	とみやま 富山 莉里有	
中学生	8年 堀口 総大	8年 先崎 佑香	7年 黒澤 史智	9年 楠見 友菜	7年 小林 悠輝	9年 和田 直之	

令和5年度 那珂市「善行青少年表彰」受賞者

氏名等	善行の概要	氏名等	善行の概要
きくち 菊池 侑子 すけだ 須田 いちか きくち 菊池 幸夏 きくち 菊池 隼人 きくち 菊池 亘佑 きたり 来栖 亘佑 はらふじ 澤藤 志頼 みやうち 宮内 結菜 (五台小3年)	登校途中に、草むらの中でうずくまっているお年寄りを見つけた。自分たちでは対処できないので、近くまで迎えに来ていた保護者に助けを求めた。保護者が警察や消防に連絡し、お年寄りの命を助けることができた。	はしもと 橋本 斗真 きのした 木下 寛翔 (第一中8年)	後台のKマート付近で、自転車のチェーンが外れ困っている女性に声をかけられ、2人で修理を試みた。直すことができなかったため、家まで送って行くことにした。自分たちも自転車だったので3人で押して歩いて、女性を送り届けた。
わたる 綿引 海翔 ながしま 長島 匠音 (第四中7年)	下校中、民家に停車している自動車のライトが点灯したままだったので、当家の方に伝えた方が良く判断し、住居の呼び鈴で住人と呼び状況を伝えた。	きんどう 近藤 春菜 (水戸農業高校2年)	五台小6年児童の通院に保護者が連れて行くことができなかったため、付き添いを引き受けてくれた。高校の授業終了後に、五台小から小野瀬医院へ、小野瀬医院から学童保育所への送り迎えを徒歩で行なった。



中央委員としての白鳥祭を終えて

八年 石川 慶次朗

瓜連中学校では年に一度、白鳥祭と呼ばれる合唱祭があります。どのクラスが一番合唱が上手か競う行事です。クラスで合唱の練習を始めたときは順調でしたが、途中から練習に遅れたら、なぜ練習をするのかを疑問視する人が出てきたりしました。しかし、最後の練習ではみんなの息が合い、心が通った気がしました。中には泣いている人もいました。

しかし、自分は喜びや感動と共に、後悔の念も抱きました。中央委員という役職についていたからです。中央委員とはクラスをまとめ、よりよい方へ導く人であり、またそうでありたいと思っています。しかし、クラスがバラバラになりかけたとき、生意気だと思われるのが怖く、呼びかけをすることができませんでした。あのとき呼びかけをしていたのではないかと考えさせ

られました。自分にとつて今回の白鳥祭は、中央委員としての在り方を問われる行事となりました。



ふれあい祭りを終えて

八年 寺門 和奏

私はふれあい祭りを終えて、またふれあい祭りを「社長」という役職で終えて身に付いたことがあります。

それは計画を立てるのが上手くなったことです。なぜなら、ふれあい祭りのお店で出す商品は一から自分達で作る為、使う材料の量、いつまでにどのくらいの商品を作るのかの計画を細かく立てたからです。このふれあい祭りで計画性を身に付けたことにより、テスト期間の勉強計画がスムーズになり、また、お出かけをした時のお金の節約が上達したと感じました。

また、当日には会場内を歩き回り呼び込みの仕事をして、瓜連の地域の人と関わることに、初対面の人との接し方を身に付けることができたと思います。

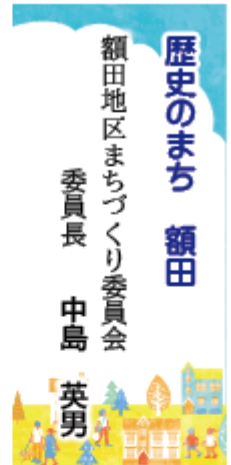
このふれあい祭りで、私は社会に出る為の階段を上ることができたと思います。これから身についていたことを活かしていきたいです。

まちづくり委員会

歴史のまち 額田

額田地区まちづくり委員会

委員長 中島 英男



今年度額田小学校は150周年を迎え10月28日に記念事業を実施しました。その際、小学校校歌に謳われている郷土の誇りについて振り返ってみました。

「ゆいしよも深い城の跡」は、鎌倉時代から戦国時代に350年余り続きました。小学校・地域の方を対象に歴史講座を計画・実施しています。今年度は額田城跡の出前講座を小学校で開催しました。「かおる若葉の台上」は、国道349道路バイパス工事の際の発掘調査(森戸遺跡)で、先土器時代(今から1万2千年以前)の遺跡が発掘されました。我が地区は自然災害の少ない、住み易い地域と地元はもとより、近々からも評価され現在に至っています。「郷土の誇り受けついで」は、神社・仏閣等が多数存在し、当時の繁栄が偲べれます。江戸時代には、水戸徳川家が常陸太田との往来の中継地として深い結びつき(県指定の有形文化財鈴木家住宅等)がありました。今回の歴史探訪は、東京にある水戸藩の上・中・下屋敷跡を巡りました。

明治から大正にかけて、「水清らか

に久慈川」は、上流からいかだを組み、流した木材を額田で引き上げました。そこで、木材の製材業、加工業が発展し、関東大震災の復興にも大いに貢献したようです。

今回の周年事業では、ふれあい祭り等を同日に開催し、地域の方が多数集い、まさに触れ合いを実感できました。歴史を知ると、愛着・誇りが持てます。今後とも額田に帰属意識を持ち、誇りを受け継ぐ活動を続けていきます。



編集後記

新年早々能登半島で震度7の大地震がおき衝撃的なニュースが放映されました。一日も早い復興を願っています。今年には六〇年に一度の甲辰です。

辰年には、政治の大きな変化や国家でのプロジェクトが多いことが特徴とされています。

辰年は十二支の中で最も縁起の良い干支といわれており、様々な願いを叶えてくれるだけでなく、あらゆる物事を良い方向に導いてくれる力があるとされています。

今年は、目標を達成できる一年にしたいです。

広報部会長 綿引 けい子